

## 生田緑地ばら苑 開苑60周年 天空の楽園を支える「ばら苑ボランティア会」

### 市民の心を癒す ばらの花

天空の楽園と言われている「生田緑地ばら苑」(以降「ばら苑」と略します)の歴史は古く、開苑は1958(S33)年にさかの



▲バラと花の女神フローラ像

き継いでいます。

生田緑地の中に位置するばら苑は、周囲を多摩丘陵の樹林地に囲まれ、360度の緑のパノラマと清涼な空気を体感できる心も身体も癒すことのできる花園となっています。

毎年、春と秋の2回の一般開放が行われ年間で約10万人の来苑者が訪れています。

### ばら苑ボランティア会の活動



▲ つるバラの作業

同会は、春の開苑(5月中旬から5月下旬)と秋の開苑(10月中旬から11月上旬)に向け、年間を通して作業を続けています。

主な作業は①バラの育成管理(除草、芽かき、凋花切[ちょうかき]、施肥、中耕、側蕾取り、剪定等)②ばら苑及び周辺の維持管理(除草、芝生管理、樹木管理、清掃等)③開苑期間中の業務(来苑者の受付及び来苑者数の把握、募金の受付等)です。

原則、週3日で10時～12時の時間帯に作業しており、2002(H14)年から入会している会員を含め、常時活動している方は30～40名程います。会員は約150名(2018年1月現在)です。



▲ 防草シート張りの作業

今年1月下旬には、大雪が降りましたが、陽だまりで雪の少ないところからバラの手入れをしていました。

バラを剪定していた会員は、「形の整ったバラにするためには、時間をかけてしっかり世話をしなければいけません。特に小さなバラは、剪定する箇所特に気をつかいます。」と話していました。



▲ 冬の作業の様子

### ボランティアのやりがい



▲ 前山さん(左)と大川さん(右)

11月と1月、ばら苑の大川弘苑長と同会の前山英二会長からお話を伺いました。大川さんは、「ボランティアのみなさんのおかげで、ばら苑が成り立っ

っており、毎年美しいソバラを観ることができます」「交通費なし・無報酬で都内等遠くから通ってくださる方もいます」と、同会へ感謝していました。また、前山さんは、「ボランティアの方々は、健康のため(階段を登ることができる間は活動をつづけたい)・社交場(コミュニティの場)・バラが大好き・育て方や地植えを学びたい・バラを観たり育てたりしたい」等、同会会員のみなさんの活動への思いについて話していました。

### 好評なイベント

一般開放時に行っている「バラの写真展」「バラに関する講習会」「ボランティアガイド」「ばら苑コンサート」等はどれも好評で、ばら苑の一般開放を盛り上げています。

ばら苑一般開放の開催期間等の詳細は、ホームページで詳しく紹介しており、5月からの開苑が楽しみです。

### 2018年春の「ばら苑」一般開放 開苑は5月中旬～下旬

場所：川崎市多摩区長尾 2-8-1

交通：小田急線向ヶ丘遊園南口から徒歩、JR 南武線宿河原駅から徒歩、登戸駅からバス(藤子・F・不二雄ミュージアム行き)等

開苑時間：月～金は10時～16時30分、土・日・祝日は9時～16時30分(最終入場は16時)

問合せ：生田緑地ばら苑管理事務所

044-978-5270 (開苑期間中)